

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000267
法人名	有限会社 成栄測量設計事務所
事業所名	グループホームティアラ
所在地	富岡市富岡362-7 (電 話) 0274-62-6800
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年6月25日

【情報提供票より】(20年5月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 8人, 非常勤 13人, 常勤換算 10.3人	

(2)建物概要

建物構造	木・鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	200/日
敷 金			
保証金の有無 (入居一時金含む)		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	700円/1日		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院、公立七日市病院、中村歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街にとけこむような佇まいのホームである。自治会の一員として、地域のゴミ収集場所の清掃や祭り等の行事に参加したり、ホーム主催の行事に近隣の人たちに呼びかけるなど、地域の人たちとのふれあいを大切にしている。入居者一人ひとりの権利を守り、尊厳を大切に、家庭に近い生活の場を基本にしながら、介護を行っている。困難事例に対しては、全職員で検討を行い、マニュアル作りをして同じ方針で介護できるようにサービスの質の向上に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題には、独自の改善計画シートを作成し、改善に取り組んでいる。鍵をかけないケアの実践については、入居者の状況により落ち着かないときや帰宅願望が見られるときのみ施錠し、日中は鍵をかけていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	運営者及び全職員は、評価の意義を理解している。ホーム長、管理者が案を作成し、職員から意見を聞いて作成している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	区長、組長、民生委員、入居者、家族、市職員の構成員で会議が行われている。ホームから状況報告や行事参加の呼びかけを行い、それぞれの立場からの意見が出され、話し合いを行いサービスに活かしている。また、さらに発展的な会議になるよう、構成員から運営推進会議のあり方のアンケートを行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	面会時や行事参加の家族と会う機会に、意見や要望を聴いている。また、家族会や運営推進会議で、家族の意見を聴き運営に反映している。家族からは、「入居者が無事ならいいです」の声が多い。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に入り、ゴミ収集場所の清掃や祭りなどの行事等に参加したり、ホーム主催のバーベキューに地域の人に参加を呼びかけるなど、交流に努めている。地域の方や学生のボランティアを受け入れたり、退職後の職員がボランティアで来たり、ホーム創設記念日には近隣のファミリーレストランへ全入居者と家族や地域の人と一緒に外食を楽しむなど、地域の人々が気軽に立ち寄れるよう働きかけしている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で考え、「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」を基本理念として掲げ、地域の中で自立した生活を送れるように、その人らしさを大切に尊厳が保てるように、方針を定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやカンファレンスの際に理念を確認し、管理者と職員は共有し、実践を通して理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、ゴミ収集場所の清掃や祭りなどの行事等に参加したり、ホーム主催のバーベキューに地域の人に参加を呼びかけるなど、交流に努めている。ボランティアを受け入れたり、近隣のファミリーレストランへ全入居者と家族や地域の人と一緒に外食を楽しむなど、地域の人々が気軽に立ち寄れるよう働きかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ホーム長、管理者が案を作り、職員から意見を聞き作成している。外部評価を活かして、独自の改善計画シートを作成し項目毎に改善に向けて取り組んでいる。鍵をかけないケアの実践については、入居者が落ち着かないときや帰宅願望のみられるときのみ施錠し、日中は鍵をかけていない。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、組長、入居者、家族会、民生委員、市職員のメンバーで会議を行っている。会議では、ホームから行事参加の呼びかけや状況報告等がされ、それぞれの立場で意見が出され、話し合いを行いサービスに活かしている。構成員から運営推進会議のあり方のアンケートを取るなど、今後さらに発展的な会議になるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、ホームの空き情報の連絡や困っていることを日常的に相談している。また、市から入所の相談もある。毎月、市主催の地域ケア会議に出席して情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態や暮らしぶりは、家族の面会時や行事参加時等の家族と会う機会に話をしたり、電話をかけたり、月1回の手紙で個々に報告している。また、担当職員が入居者の写真をプリントした年賀状を作成し、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事参加の家族と会う機会に、意見や要望を聴いている。また、家族会や運営推進会議で、家族の意見を聴き運営に反映するとともに、家族等との連絡を密にし安心していただけるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は本人が話したり、手紙を書くなど個々に対応している。新入職員や代わる場合は、入居者や家族に紹介して、徐々に馴染めるようにし、ダメージを防ぐ配慮に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員が交代で参加し、研修後報告を行い職員で共有している。事業所内では、「口腔ケア」などをテーマに月1回の勉強会を行い、サービスの向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入し、グループホーム大会に参加している。交換研修では、他のグループホームを受け入れ、交流を通して学んでいる。また、介護の成功例等を事例にまとめ、発表するなどサービスを向上させる取り組みをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が見学し、納得してから利用を開始している。すぐに入所したい場合には、紹介者やケアマネージャー、家族から情報収集をしている。利用後は、家族との情報交換を行い、入居者の様子を観察記録に記載し状況を把握し、徐々に馴染めるように対応を検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴を活かし、農家だった人にはホームの畑の手入れなどをしてもらうなど、入居者の経験から学んでいる。また、職員と一緒に食事の準備をするなど役割を持ち、できることや得意なことが活かせるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族から希望や意向を聴いて、アセスメントシートを作成している。把握が困難な場合は、入居者の日常の様子を観察したり、生活歴から把握し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の希望を確認し、職員や関係者の意見やアイデアを参考に、ケアマネージャーが日常ケアの計画が詳細に書かれた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しのためにカンファレンスを行っている。検討する入居者を一週間前より提示し、ケアチェック表に職員が気づいた事を記入し、話し合いを行っている。1ヶ月ごとに検証し、3ヶ月ごとに現状に即した新たな計画に変更している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の方からのグループホームはどういう人が入れるのかや介護相談を受けている。また、家族の希望や本人の状況により、受診時の送迎や介助を行ったり、看護師の職員により褥瘡の処置を行ったりしている。入居者が自分で選び買い物をする為の付き添い支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の医療が受けられるように支援している。受診時には、家族とともに看護師または職員が同行し、情報提供を行ったり、受診結果の情報共有に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、対応できる事を伝えている。家族の希望もあり、老衰やガン末期の入居者の看取りを行っている。入院した場合は、毎日訪問し入居者の精神安定を図るなどの支援も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護や個人情報の取り扱いについて勉強会を行ったり、ミーティングで話し合いを行っている。日々の介護の中でプライバシーを損ねるような言葉かけのないよう注意している。また、書類は事務室へ保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々のペースで、テレビを見ながらまどろむ人、貼り絵をする人等一人の時間を過ごせるよう、その人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	たまねぎの皮むきなどの下ごしらえや食事の盛り付け、食器拭きなどを、一人ひとりの力を活かしながら入居者と職員が一緒に行っている。入居者がホームの菜園から採ってきた野菜も食材となる。職員は一緒に食事をしながら、さりげなく支援したり、声かけをして楽しい雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日は決めているが、その日の入居者の体調や精神状態などを考慮して、一人ひとりのタイミングをはかりながら支援している。事例検討を行い入浴マニュアルを作成し、入浴拒否をする入居者への声かけや誘導等の対応を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を参考に、釣りが好きだった入居者と釣堀に出かけたり、裁縫の得意な入居者に布でお尻拭きを作ってもらったりしている。また、カードに字を書いて読むなど、楽しみながら持てる力を引き出す働きかけを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけたり、ベランダで外気浴をしている。また、桜を見に行ったり、創設記念日には家族や地域の人を誘って外食に出かけている。外出の際のおしゃれが、入居者の楽しみにもなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は鍵をかけることの弊害を理解し、入居者の状況により、落ちつかない時や夕方の帰宅願望が見られるような時は施鍵しているが、日中は鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。入居者も参加し、非常階段からの避難や消化器の訓練を実施している。訓練時は地域の方にも声をかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状況にあわせて、きざみ食やミキサー食など形態を変えて食事を提供している。水分制限のある人には、コップに目盛りをつけて摂取量を把握しやすいようにしている。管理栄養士が、栄養バランスに配慮した献立を作っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には椅子が置かれ、腰かけられるよう配慮されている。ホーム内は窓が大きく明るく、調理室からの調理の音や臭いが生活感を感じさせる。壁には行事の写真等が飾られ家庭的であり、話題作りが出来るよう工夫されている。トイレも広く、使用しやすい。2階ユニットのベランダは広く外気浴等に利用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は窓が大きく明るく、馴染みの家具が持ち込まれ、絵や写真が飾られている。入居者の状況により、畳敷きにして布団を敷くなど、本人が居心地よく過ごせるように支援している。		